

令和4年8月20日・21日

全国保健所長会

公衆衛生医師サマーセミナー PHSS2022

# 公衆衛生医師が身につけるべき 専門能力・コンピテンシーとは

大阪府健康医療部 宮園将哉

# コンピテンシーとは

コンピテンシー（英: competency）とは、企業などで人材の活用に用いられる手法で、高業績者の行動特性などと訳されている。（Wikipedia）

コンピテンシーとは、優れた成果を創出する個人の能力・行動特性のこと。成果主義人事制度と同時に、多くの企業で導入されたが、運用面で試行錯誤が行われつつある。（野村総合研究所）

コンピテンシーとは、優れた業績を残した個人の行動特性のこと。英語の competence（競争する）の名詞形で、主に企業において社員の能力評価や人材の採用基準として用いられる。コンピテンシーの特徴は、個人を評価するのに知識レベルや資格、学歴などではなく具体的な行動によって行うことである。また、チームワーク、親密性、情報収集力などの評価項目を用いることで、評価者の主観に左右されない客観的な評価を可能にする。（Weblio辞書）

# 一般的な医師に求められる能力とは

## ○コア・コンピテンシー

- ・能力・行動特性

## ○プロフェッショナリズム

- ・専門性
- ・知識・スキル・態度・行動
- ・実際の仕事ぶり

## ○医師の役割

- ・治療者（癒し手）
- ・専門職（プロフェッショナル）

# では…社会医学系専門医が持つべき能力とは

## ○コア・コンピテンシー

- ・ 基礎的な臨床能力
- ・ 分析評価能力
- ・ 課題解決能力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ パートナーシップの構築能力
- ・ 教育・指導能力
- ・ 研究推進と成果の還元能力
- ・ 倫理的行動能力

(出典：社会医学系専門医協会 専門研修プログラム整備基準)

# 社会医学系専門医の到達目標

## ○専門技能

- ・ 社会的疾病管理能力
- ・ 健康危機管理能力
- ・ 医療・保健資源調整能力

## ○専門知識

- ・ 公衆衛生総論
- ・ 保健医療政策
- ・ 疫学・医学統計学
- ・ 行動科学
- ・ 組織経営・管理
- ・ 健康危機管理
- ・ 環境・産業保健

(出典：社会医学系専門医協会 専門研修プログラム整備基準)

# 社会医学系専門医の経験目標

## ○総括的な課題（全項目が必須）

- ・ 組織マネジメント
- ・ プロジェクトマネジメント
- ・ プロセスマネジメント
- ・ 医療・健康情報の管理
- ・ 保健・医療・福祉サービスの評価
- ・ 疫学・統計学的アプローチ

## ○各論的な課題（全22項目中3項目の経験が必要）

- ・ 保健対策（母子保健ほか 6項目）
- ・ 疾病・障害者対策（感染症対策ほか 4項目）
- ・ 環境衛生管理（生活環境衛生ほか 3項目）
- ・ 健康危機管理（パンデミック対策ほか 5項目）
- ・ 医療・健康関連システム管理  
（医療・保健サービスの安全および質の管理ほか 4項目）

（出典：社会医学系専門医協会 専門研修プログラム整備基準）

さらに…公衆衛生・行政医師が持つべき能力とは

○社会医学系専門医が持つべきコア・コンピテンシー

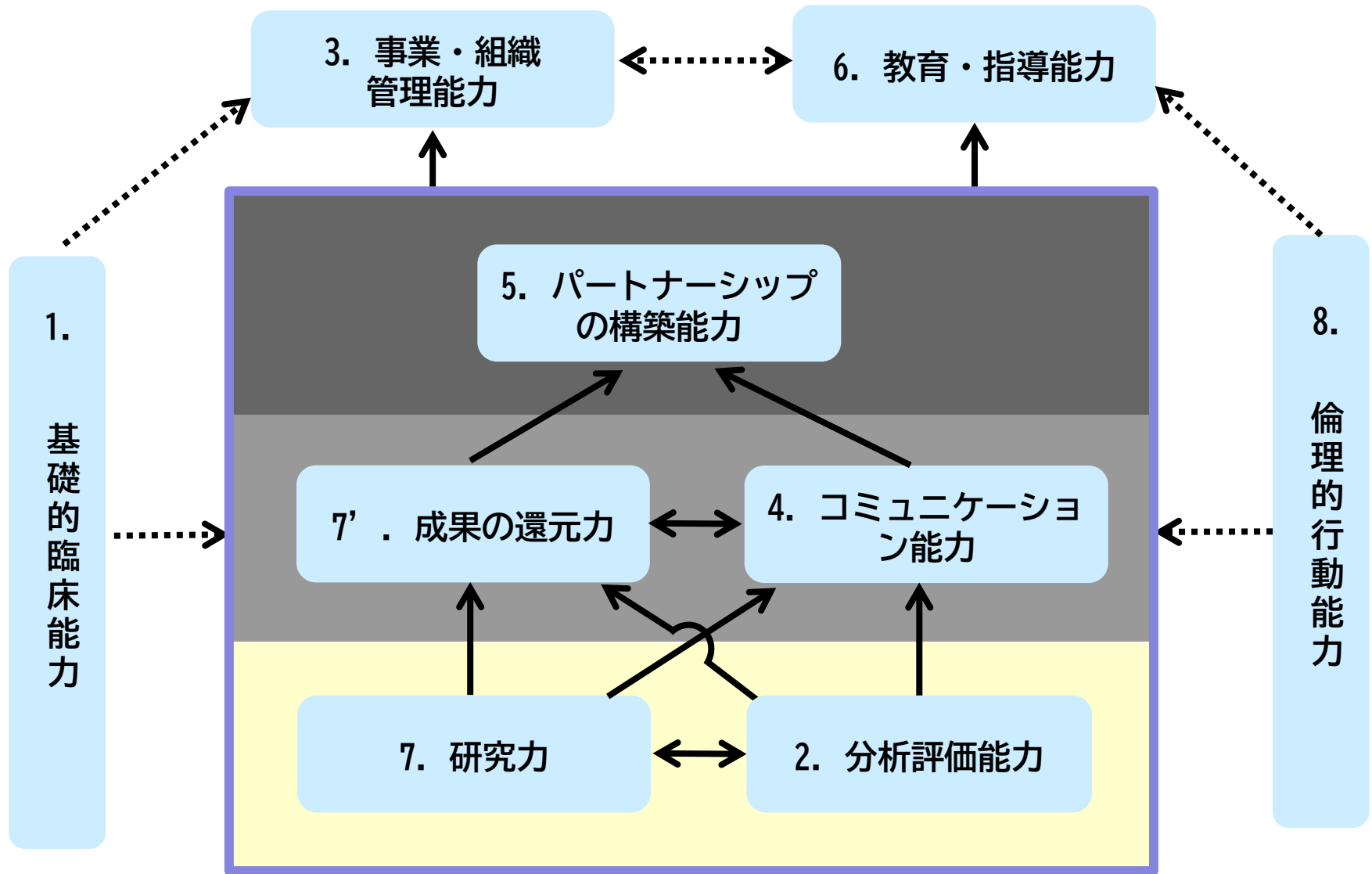
- ・ 基礎的な臨床能力・分析評価能力・課題解決能力
- ・ コミュニケーション能力・パートナーシップ構築能力
- ・ 教育・指導能力・研究推進と成果の還元能力
- ・ 倫理的行動能力

○その他には？

- ・ 研究推進と成果の還元能力と倫理的行動能力について一部の内容を補完する程度でいいのでは？
- ・ 内容の補完よりも、獲得すべきコンピテンシーに優先順位があるのではないか？

(出典：大阪府行政医師・歯科医師育成ガイドライン)

# 社会医学系専門医が獲得を目指すコアコンピテンシーの階層性



→ 正の因果的關係

⋯→ 補完的關係



# 公衆衛生医師が従事する業務

## ○自治体、勤務先、役職によって大きく異なる

### ・都道府県型保健所の場合（例）

医事、薬事、医療計画、医療介護連携・地域包括ケアシステム、健康づくり、生活衛生、感染症対策、難病対策、精神保健福祉 など

### ・市区型保健所の保健センターの場合（例）

母子保健、成人保健、感染症対策、難病対策、精神保健福祉、健康づくり、医療介護連携・地域包括ケアシステム、高齢介護 など

### ・都道府県庁の場合（例）

医療計画、医療介護連携・地域包括ケアシステム、救急・災害医療対策、感染症対策、健康づくり、がん・生活習慣病対策、母子保健、難病対策、精神保健福祉 など

### ・市区役所の場合（例）

医療介護連携・地域包括ケアシステム、感染症対策、健康づくり、がん・生活習慣病対策、母子保健、難病対策、精神保健福祉 など

# 公衆衛生医師のキャリアパス

○医師個人で様々なキャリアパスが存在する

- ・ **ファーストキャリア型**

臨床研修終了後すぐに都道府県市に入職。 行政の経験を若手のうちから十分積みながらキャリアアップしていく。

- ・ **セカンドキャリア型**

5～15年程度の臨床経験を積んでから35～40歳ごろに キャリアチェンジ。臨床での経験を踏まえつつ行政でも若手としての経験を積みながらキャリアアップしていく。

- ・ **ラストキャリア型**

25年程度の臨床経験を積んでから45～50歳ごろに キャリアチェンジ。長い臨床経験が公衆衛生行政の中で活かされることも多い。

# 大阪府と本事業班での取り組み

## ○人材育成に関する公衆衛生・行政医師の特徴

- ・他の職種では社会人としての十分な育成ができている年齢に達した人が、医師の場合は新任として入職してくる。
- ・職場の中でも医師として見られることから、同僚だけではなく上司も遠慮がちになり、十分な指導・育成が行われない。



## ○公衆衛生・行政医師が持つべき能力がまだまだ不明確のため、業務の中のどのような場面でどのような判断や行動を取るときどのような能力やコンピテンシーが必要となるかを具体的にイメージできるものが必要



## ○架空の若手医師が業務の中で遭遇した事案の解決や求められた役割を果たす物語を作成し、それぞれの場面で必要となったコンピテンシーを提示する「モデル事例集」を作成してはどうか

# 例えば…

## ○初級者編

- ・ 保健所の係長として配属されたが、新任職員が業務中にいつもスマホを触っていることについて、他の職員から係長が本人に注意するよう言われたため、事実確認や本人への注意など必要な対応を行った。
- ・ 保健所の課長として配属されたが、月1回の課の定例会議がマンネリ化しており、自分だけではなく課の職員も何とかしてほしいと思っていることに対して職員の意見を聞きながら会議内容等の改善を進めた。

## ○中級者編

- ・ 本庁の生活習慣病担当課に主査として配属されたが、そこで死亡統計の分析を進めて市町村の実態を明らかにするとともに、死亡率を改善するための具体的な提案を行った。
- ・ 本庁の感染症担当課に主査として配属されたが、新型コロナウイルス感染症のクラスター対策を進める中で、無症状者へのスクリーニング検査の費用対効果を科学的に分析して、より効果的な対策ができるよう具体的な提案を行った。

# これからの公衆衛生医師が身につけるべき 専門能力・コンピテンシーとは

## ○社会が医師に対して何を求めるのか

- ・ 医師は患者を診ることを第一に考えるべきではないか
- ・ 医療の専門家としてチーム医療のリーダーであるべき

## ○社会が行政に対して何を求めるのか

- ・ 医療には社会保障やセイフティーネットの機能を求める
- ・ 行政にはそれを法制度や財政面から支える役割を求める

## ○公衆衛生医師にはどんな能力が求められるのか

- ・ 基礎的な臨床能力／分析評価能力／課題解決能力
- ・ コミュニケーション能力／パートナーシップ構築能力
- ・ 教育・指導能力／研究推進と成果の還元能力／倫理的行動能力
- ・ 社会的疾病管理能力／健康危機管理能力／医療・保健資源調整能力